

「ディスク・エナジザイザー」効果の七不思議

**成長するディスク処理装置？
空間までも改善できる？**

近ごろAER「ディスク・エナジザイザー」の注目度がメキメキ向上。CDやDVDのいわゆる事前処理装置だが、この手のアイテムは消磁や静電除去、イオン処理などあまたあって、皆さんそれぞれの効果を試されたことだろう。だがそれとかけ離れた理論や仕組みと、七不思議ともいえる広範囲な効果で、再び処理装置ブームを巻き起こそうとしているのだ。「不思議」を列挙してみよう。なぜディスクをかけカチッと光らせる(照射)だけで、音が激変するのだろうか？(のちほどレポート)。あの光の正体はナニモノだ。ディスク内でどんな振る舞いをしてているのか、不思議だ。

処理はほんの数秒で済み、超カンタン。効果は2時間続くとされるが、以前は80分だったはずだ。カスタムチップ内蔵らしいが、この成長する秘密は何だろう。CDだけでなく、半径1メートル内の球体空間にあるコンポにも効いて、さらにリスニング環境まで改善してくれるのはなぜか。知れば知るほど不思議だらけの、

前代未聞なアイテムである。

昨年の夏デビューしたその生い立ちからおさらいしよう。メロディ真空管アンブのレファレンススピーカーを製造していたAERが、物理学分野の「量子論」場の理論」の応用として、本装置を開発したもの。輸入元のTRNのホームページの動画説明を見てもらった方が早いけれど、エナジザイザーは電池によって、常時エキサイトされている。スイッチを押すと光子が発生。CDが読み取りレーザーの照射を受けると、全ての陽子振動がびたりと同一方向に整列することでサウンド自体が整理される。この効果が2時間とプログラムされているのだ。マイコンなのでこのあたりは自由自在。

なぜ効果が空間に及ぶのかというのも、話が逆である。もともと空間を気持ちよい環境にするための装置をCD向けに改良した。といえはわかりだろうか。理屈に走り過ぎたようだ。要はどれだけ音がよくなったかという結果がすべて。刃物に砥石があるように、音にも研ぐ道具が必要だろう。つまり「音の研ぎ道具」が「ディスク・エナジザイザー」なのだ。同じ刺身でもよく切れる包丁だと、美味

しく調理できるという例えである。

**まさに音の調理人として機能
2時間で効果が戻るのも安心**

CDをかけた。処理後の、この音の気持ちよさは何だろう。かさつきやこわばり、汚れやしみなどとこへ失せたのか！というほど音色が滑らかで緻密。かつくつきりと澄み渡る空間表現がすぐに気づいた特徴だ。低域が締まるとかハイが伸びるといふ次元ではない。すべての音の流れがよく勢い

があつて、音楽に活力がみなぎるのである。当然だが遠近や広がり、高さなど楽器の立ち位置が素晴らしく立体的に聴こえています。ナマを聴いている人には、ピタリとはまる音の調理人といつておこつ。

嬉しいのは処

理が早く、その変化が実に明快で、かつ2時間で元に戻ってくれることである。これなら安心して処理しようという気になれるわけだ。

CD以外では、ケーブルやスピーカー、ヘッドホンでの処理が特に有効だ。また他の処理と組めば積み上げ効果大！音楽の生き生きした流れがよみがえり、試聴空間までリフレッシュするという前代未聞の超処理効果を、あなたも体験してください。



AER
DISC ENERGIZER
¥49,350

●処理時間：約5秒間 ●効果の持続時間：約120分程度 ●単4電池2本駆動

「DISC ENERGIZER」の動作を動画で体験できる！
<http://www.trn-japan.com/>